

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【芸術（音楽）/音楽Ⅰ】

1 対象（実施を想定する学校・生徒の実態の概要）

歌唱に対しての意欲は高く、正しく音を取り、歌唱する技能も高い。1学期には伴奏付きの斉唱、2部合唱、3部合唱の学習を通し、歌唱における日本語の発音方法とアンサンブルについて学び、相手の音を聞いて歌唱することを理解している。

楽曲を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、イメージを持って歌うことはできるが、曲想と歌詞との関わりを理解して表現するまでには至っていない。音楽を形づくっている要素のうち、音色、リズム、速度、旋律、強弱の視点から考えることはできるが、テクスチュア、形式などはまだ言及できない。

2 題材

「さびしいカシの木は本当にさびしいのか～ア・カペラに挑戦～」(全5時間)

3 題材目標

- ・曲想を歌詞の内容と関わらせて感じ取り、イメージを持って歌おうとしている。【音楽への関心・意欲・態度】
- ・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、どのように歌うかについて表現意図を持っている。【音楽表現の創意工夫】
- ・ア・カペラによる歌唱の特徴を生かした音楽を表現するために必要な歌唱の技能を身に付けている。【音楽表現の技能】

4 本時の目標(5/5時間)

歌詞と曲想を関わらせて作者の思いを感じ取り、ア・カペラの特徴を生かして歌う。

5 本時の授業展開

解決したい課題や問い

「さびしいカシの木」は本当にさびしいのか

考えるための材料A		考えるための材料B	
楽譜「さびしいカシの木」 (作詞 やなせたかし 作曲 木下牧子)		ワークシート	
想定される活動	想定される活動	想定される活動	想定される活動
曲想と歌詞の内容を関わらせて考える。 【問1】「風」「雲」はカシの木にどのようにふっていたのだろう。	楽曲と背景を関わらせて考える。 【問2】「ほほえみながら」だった時のカシの木は、どのような気持ちだったのだろうか。	どのように歌うかについて表現意図を持つ。 【問4】「さびしいことになれてしまった」をどのように歌いたいのか？	楽曲と歌詞の内容や楽曲の背景、曲想を関わらせて考える。 【問3】「さびしいカシの木」は本当にさびしいのか。

対話と思考

- (1) 問題提示(10分) 前時までの学習内容を振り返った上で歌唱する。本時の課題を理解する。
- (2) 対話と思考①(20分) 楽譜を基に、【問1】と【問2】を考える。1、2番の歌詞の違いと旋律の流れの違いから作者の意図を読み取る。【問3】を基に、歌詞と旋律を関連させて考える。

「さびしいってパートで追いかけてながら何度も言っているからさびしい思いが強まっている」「音は上にあがっているから明るい気持ちになっているのかな」「1、2番の曲想と少し違う感じだから前向きな感じになっていると思う」

- (3) 対話と思考(15分) 【問4】について考え、グループ、全体で意見を交換する。グループで、歌詞と旋律を関連させてどのように歌えばよいかを考え、歌う。

「私は音が上がっているのは気持ちが前向きだからだと思う。“ほほえみながら～”から明るく歌いたいけど、グループでは音が上がっているのは、さびしさが募っているからだから、さびしく歌おうって話した。」「私は暗く歌おうと最初は思ったけど、他のグループの意見を聞いて考えが変わった。1、2番とは違う感じの旋律だから元気に歌っているのは違うけど、暗い感じでなく歌うのがいいと思う」「グループで話し合った通り、さびしいって気持ちをマックスにして歌いたい」

- (4) まとめ・振り返り(5分) 振り返りシートで自分がどのように歌いたいかをまとめる。

学習の成果(予想される生徒のあらわれ)

- ・「さびしい歌詞の曲だったから、最初は全体的に悲しく、静かに歌おうと思っていたけど、曲想と一緒に考えると最後の部分の旋律が上に上がっていて、前向きに明るく感じる。だから私は、さびしい気持ちではなく、少し前向きな気持ちで歌いたい。」
- ・「私は、最後のフレーズはフォルテで歌うように書かれているのはカシの木の強さを表していると思った。カシの木はさびしくないから優しく、明るく歌いたい。」
- ・「さびしく、悲しい歌詞だったから暗いイメージを持って歌っていたが、1、2番と3番を比べると明るいメロディーだった。だから前向きさや強い意志を持った曲だと思った。このカシの木は強いから前向きな気持ちで、積極的に歌いたい。」
- ・「“さびしいことに慣れてしまった”という歌詞は2回繰り返されている。だから単にさびしいことをだけを示しているのではない。各パートの音の幅が広がっているから寂しさがマックスなんだと思う。だから、私はさびしさが伝わるように歌いたい。」

育成すべき資質・能力3つの柱から上記のあらわれを表現するための視点

①知識及び技能	
②思考・判断・表現力等	知覚・感受しながら曲想を歌詞の内容と関わらせて感じ取り、音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて表現意図をもっているか。
③学びに向かう力・人間性等	曲想と歌詞の内容との関わりに関心を持ち、イメージを持って歌う学習に主体的に取り組んでいるか。

授業実践振り返りシート（授業前後）

授業開始直後と授業終了時の学習課題に対する考え（あらわれ）を比較・分析することで、生徒の学習状況を把握し、授業設計診断4項目の視点に立って授業設計を見直す。

	授業開始直後の学習課題に対する考え	授業終了時の学習課題に対する考え
Aさん	カシの木はずっと一人だったから、さびしくなって、どこか遠くに行きたいのに行くすべもないし、みんな流れていっちゃうから、カシの木はさびしそうだなって思った。	1、2番は音が下がっているから本当にさびしいんだらうなって思えるけど、3番は音が上がっているから、もうさびしくなんかないっていう明るさを音から読み取れる。だから、最後はもうさびしくなくなったんだと思う。
Bさん	孤独、さびしい。おいて行かれる。いつの間にか一人になっていた。 木は樹齢が長い→風や雲はすぐに通り抜けて消えてしまう→静と動の対比。	さびしくない。今まで2小節で歌っていたところが4小節になっていて、穏やかで音も安定している。終わりがデクレッシェンドではなく、クレッシェンドで、明るくなっている。音が高くなっていて楽しそう。
Cさん	カシの木は本当にかわいそうな木だと思いました。小学校低学年の友達がいなかった頃の自分を思い出しました。	さびしいと思う。最後「慣れてしまった」のところが1回目は前向きにならなきゃ！という気持ちで音が上がるけど、2回目は下がっていて、やっぱりさびしいんだなと思った。

授業設計の振り返り	
解決したい課題や問い	解決したい課題や問いは生徒の思考を促すことができよかつたと思う。しかし、設問（問3と問4）の与え方を逆にすれば、もっと生徒は考えることができたのかもしれない。
考えるための材料	考えるための材料を与えるタイミング、与え方は適切だつたと思った。しかし授業後、学習の成果から授業を振り返ると、生徒の中には材料について理解しきれていない生徒がいたことが分かつた。
対話と思考	対話と思考の時間の確保はできていたと思う。しかし、グループによっては生徒が思考を深めきれないグループがあり、グループ編成に課題があつた。また、学習集団によっては、対話と思考の時間が不十分になることもあつた。
学習の成果	生徒は、課題を多角的な視点から考えることができた。しかし、楽譜を読み取るだけで思考を深めることができず、関わらせて感じ取るという学習目標に達しない生徒が40%、楽譜を読み取れない生徒も若干見られたことは、課題である。2学期の終わりには楽譜を読み、感じ取る力を付けたい。また、この題材における「音楽表現の技能」の評価（見取るタイミングと目指す生徒の姿）は、今後の検討課題としたい。題材における授業時間数、思考させる時間、ルーブリックなどを見直すことで、授業改善につなげたい。